

榊原病院

Vol.32

Monthly

2019.January

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院長就任。

日本司法精神医学会評議員。



診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症
専門外来
- こころのリスク外来

病床数

176床

- 精神科病棟 158床
- 医療観察法 18床
- 認知症ユニット
- アルコール・薬物依存症ユニット

病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

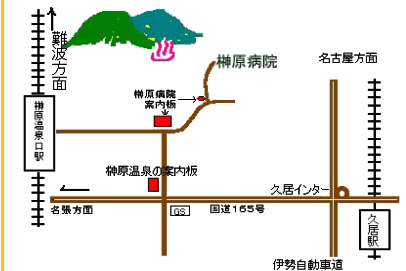
《平成の終わり～新しい時代の始まりに向けて》

院長 村田 昌彦

皆さま明けましておめでとうございます。表題のように、今年は平成最後の年になり、5月には新たな元号が制定されます。平成天皇は永らく国民に寄り添ってこられました。ご高齢を理由に引退を希望されました。被災した各地へお見舞いに足しげく通われるなど、85歳になるまでよく公務をお勤めになったと私は尊敬いたします。平成の時代はバブルによる土地転がしなど経済的な狂乱の時期がありました。その後バブルがはじけ、アメリカ発のリーマンショックなど、私たちを取り巻く経済状況は厳しくなりました。バブルの時に浮かれず、堅実に福利や福祉などにもう少し目配りができていれば、今頃日本全体で働く環境はずっと快適になっていたのではないかと思います。それでも平成の時代から私たちが学んだことは多かつたのではないのでしょうか。

さて、新しい年になり私たちの病院の病棟を改修する計画が動き出します。当院の病棟は平成5年、7年、19年に竣工していますが、5年と7年にできた病棟は耐震性に問題はないものの、平成ひとケタ時代から比べると、現在は患者さんへの診療機能（医療・看護・心理社会的な治療）が大きく変わっており、内部構造が使いにくくなっていました。そこで、建物の躯体は温存し、内部構造を大幅に改修することにより、新たな診療機能に対応し、今後の発展にも対応できるように改修をすることになりました。当院は入院していただく際に、①躁うつ病や統合失調症、児童・思春期、アルコールなどの依存性の患者さん、②難治性の統合失調症の患者さん、③認知症、知的障害の患者さん、など疾患により病棟を分けて受け入れています。①、②、③とそれぞれ病棟機能が異なっており、改修によってこれらの機能をこれまで以上に発揮できるようになることが期待できます。工事が始まるのは今年の後半になると思います。工事中は入院中の患者さんや近隣の方々には大変ご迷惑をおかけいたしますこと、どうかご海容くださいますようお願いいたします。

その中で働く私たち職員も気持ちを新たに患者さんと向き合っていきたいと思っております。病棟改修は職員みなさんが希望し、獲得した成果です。この成果をより高い専門性をもって患者さんに還元できるよう、努めてまいります。



電車・バス／近鉄久居駅下車、三交バス（榊原温泉口駅行）にて約30分。
榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車／久居インター（伊勢自動車道）より西へ約20分

マイクロバス／久居駅より直通バス（約25分）



トピックス

行事・
出来ごと

- 平成30年10月24日、平成30年度 病院立入検査を受検しました
- 平成30年10月27日、榊原第二地区 市民公開講座を開催しました
- 平成30年11月25日、第12回榊原温泉秋の収穫祭に参加しました

教育・
研修

- 平成31年1月16日、三重県難治性精神疾患ネットワーク研修会・第7回症例検討会(YOU-C-C)開催
- 平成31年2月22日 14:00～ 自閉症・発達障害研修会(於:三重県総合文化センター)

榊原病院ホームページ
QRコード



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできず使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成30年12月までに全症例は71例となりました。新規導入は11月1例、12月1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われております。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。榊原地区の自然を楽しむ町内散歩や、スポーツ、音楽、アートなど様々な楽しみごとを行います。昼食づくりやお菓子作り、喫茶の会など、実用的な体験もできます。参加者で協力しあって、コミュニケーションの練習も、がんばっています。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。

料理教室でナン作りをしました♪



ナンの中にはとろけるチーズを練り込みカレーとおいしくいただきました。生地から少しチーズが出て来てしまいました。香ばしく仕上がりました。

栄養コラム



《 朝食は脳を動かすガソリン 》

今回は朝食が脳に与える影響について紹介したいと思います。皆さんは、朝ご飯を抜いた時に頭がぼーとしたという経験はありますか？実は脳は寝ている間にもしっかりと働いているので朝起きた時は脳の燃料となるブドウ糖切れた状態になっています。平成27年度文部科学省の学力調査によると朝食を毎日食べているこどもは、まったく食べていないこどもに比べて国語の平均正答率が約23%高いという結果が出ています。このように朝食をとることで脳も働きやすくなります。車はガソリンがないと動かないように、脳も朝からガソリン不足を来さないように朝食をとるようにしましょう。

健康睡眠12ヶ条

第六条 良い睡眠のためには、環境づくりも重要です

みなさんの寝室はどうなっていますか？

よい睡眠環境とは、暑すぎず、寒すぎず、自分の寝やすい明るさ、が大切です。体の内部の熱を放出することで睡眠がとりやすくなるといわれています。暑いと熱が出にくい、寒くても手足の血管が縮んで放熱を妨げます。湿度が高くても放熱しにくいので、適度な湿度（カラカラに乾いても寝にくいですね）にも気を配りましょう。完全に消灯なくても、豆球程度の照明があっても目を閉じれば影響はありません。明るさは人によって好みで調整していただいで結構です。

